



2023年1月23日

各位

会社名 東京電力ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 小早川 智明
(コード番号 9501 東証プライム市場)
問合せ先 経理室決算統括グループマネージャー 豊城 泰晃
(TEL 03 - 6373 - 1111)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2023年3月期通期の連結業績予想につきまして下記によりお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する当期純損益	1株当たり当期純損益
前回発表予想（A）	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回修正予想（B）	7,931,000	△488,000	△502,000	△317,000	△197.86
増減額（B－A）	—	—	—	—	
増減率（％）	—	—	—	—	
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	5,309,924	46,230	44,969	5,640	3.52

2. 修正の理由

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、ウクライナ情勢等の影響を受け燃料価格および販売電力量の見通しが不透明であることから未定としておりました。

こうしたなか、燃料価格等は引き続き高水準で推移し、東京電力エナジーパートナー株式会社の収支悪化が継続していることから、今般、改めて同社の財務基盤の立て直しが必要と判断し、追加増資の引き受けを行うことといたしました。

燃料価格等は引き続き不透明ではありますが、当面の安定供給に支障をきたさないことを前提とした追加増資の引受額の決定を行うに当たり、今般、直近の燃料価格等を踏まえた業績予想値を算定いたしました。このため、上記のとおり連結業績予想を修正いたします。

業績予想の修正内容などについては、別紙をご覧ください。

以上

<別紙>

【2023年3月期通期の連結業績予想】

売上高は、燃料価格の高騰等で燃料費調整額が増加したことにより、2兆6,210億円増収の7兆9,310億円程度となる見通しです。

経常損益は、燃料・卸電力市場価格の高騰等による電気調達費用の増加などにより、5,470億円減益の5,020億円程度の損失となる見通しです。

また、関係会社株式売却益および固定資産売却益を特別利益として計上する見込みであることから、親会社株主に帰属する当期純損益は、3,230億円減益の3,170億円程度の損失となる見通しです。

(単位：億円)

	2023年3月期 (予想)	2022年3月期 (実績)	増減
売上高	79,310	53,099	+ 26,210
営業損益	△ 4,880	462	△ 5,340
経常損益	△ 5,020	449	△ 5,470
特別損益	1,860	△ 298	+ 2,160
親会社株主に帰属する 当期純損益	△ 3,170	56	△ 3,230

※特別負担金 500 億円を仮置きしております。

【収支諸元】

	2023年3月期 (予想)	2022年3月期 (実績)
販売電力量 (億kWh)	2,442	2,338
エリア需要 (億kWh)	2,690	2,687
為替レート (円/ドル)	137程度	112.4
原油価格 (ドル/バレル)	105程度	77.2
出水率 (%)	100程度	97.4
原子力設備利用率 (%)	-	-

【影響額】

	2023年3月期 (予想)	2022年3月期 (実績)
<支払利息> 金利 1% (長・短)	160億円程度	160億円程度